

クラス	308	担当教員	吉野 真紀
テーマ	体験的心理療法と臨床心理アセスメントを用いた自己との対話、自己実現		
著書・論文 研究課題等	【著書】『心理検査マッピング 全体像をつかみ、臨床に活かす』新曜社（2022；分担執筆） 【論文】「心理療法外のかかわりに活かす人間性心理学—ゲシュタルト療法における「観察」と「触媒」に注目して—」 臨床ゲシュタルト療法研究 7（2022） 臨床心理面接に活かす包括システムによるロールシャッハ・テスト—摂食の問題を呈した女性の 4 年間の臨床心理面接前後の変化—」 日本福祉大学心理臨床研究センター紀要（2019） 「夢の中のものに「なってみる」体験過程がもたらす心理臨床的意味—ゲシュタルト派およびパーソンセンタード表現アートセラピーのドリームワークを素材として—」 日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 17（2022） 「性の多様性に対する学校の理解と対応」 児童青年精神医学とその近接領域 64(1)（2023） 【研究課題】性別違和と治療を経た自己実現過程と心理的变化、思春期青年期の性別違和感、など		
ゼミナール概要			
キーワード：体験的心理療法、臨床心理アセスメント、自己との対話、安心して表現できる場、人間性心理学			
目的、内容、方法、等： ゼミでは、臨床心理アセスメント（心理検査など）や体験的心理療法（ゲシュタルト療法、表現アートセラピー）などの心理臨床的アプローチを通して、人がどのような気づきや変容を体験していくのかを主なテーマとします。関連文献の輪読・発表・ディスカッション、ワークを通して体験的に得る気づきの両方から紡ぎ、学び深めることを目的とします。 担当教員は精神科病院臨床を中心に多職種と連携し、臨床心理アセスメント・心理療法を実践してきました。また性別違和のある方々への支援にも携わってきました。その中で、人がこころのわだかまり（未完の出来事）を完結し豊かに生きていくための体験とは何かを考え、自己との対話を促す体験的な心理療法と人のこころの変容過程に関心をもっています。安心して自分を表現できる場を大切に、他者支援に必要な素地として“自分を知ること”に関心のある学生さんたちとともに学ぶゼミを目指しています。 授業計画： 3年次には、体験的心理療法や臨床心理アセスメントのワークを行い、自己と対話をする方法などを体験します。また、関連文献の抄読やディスカッションを通して基礎知識を習得します。浮かんだ連想や疑問を頭の中にとどめておくのではなく、言語化して表出し、他者とやりとりをする練習を積極的にゼミで実践することを求めます。自分自身を知ること、他者（仲間）を知ること、関係性を知ること、を学んでください。後期は、各自興味関心のあるテーマを持ち寄り発表し、研究手法の学習や研究テーマを絞っていくことを目指します。 4年次には、それぞれのテーマに沿って研究を具体化し進めます。関連論文を積極的に読み込みながら論文の書き方を勉強し、ゼミでの報告を重ね、卒業論文の執筆を行います。			
担当教員からのメッセージ			
◆ ゼミでは、卒業研究テーマに取り組むことはもちろん共通の目的ですが、「自分自身を知ること」、「他者・仲間を知ること」、「関係性を知ること」に関心がある方、苦手であってもチャレンジしてみたい気持ちのある方を歓迎します。心理臨床の醍醐味を味わって下さい。 ◆ 心理療法・臨床心理アセスメントと自己実現を主なゼミテーマに挙げていますが、卒業研究ではこれに限らず各自が学びの過程で興味関心をもったテーマを追求し、主体的に取り組むことを応援します。 ◆ 自分のこととして能動的にゼミに参加し自分を表現すること、仲間の表現を尊重しメッセージに耳を傾けること、を期待します。楽しく交流しながら研究を進められるようにともに頑張りましょう。			